

私のこころみ

幼児の生活から取材したお話(2)



鈴木正子

ロンとさくら

五才児向

「あれ、犬がお花をたべちやつた」だれかさんの笑う声がしなかつたら、ロンはいつまでもいつまでも考えていたでしょうね。

ロンを笑っただれかさんは幼稚園のことどもたちでした。

「さくらだよ、さくらだよ、はなきかじいさんだよ」と、こども

たちは大きな声をあげしゃがむと、両手にいっぱい散りついた

さくらの花びらをすくいあげて、ロンの方にぱつとなげました。

うすもも色の花びらは、ぱっとひろがるとロンのあたまの上におちてきました。

「わんわんわん」とロンはほえてくるくるまわりました。

それから、ロンはさくらと雪をまちがえてはずかしかったのかに、きょうの雪はとけません。とけないどころかあまーいのです。

ロンはみじかい首をまげて考えました。

ひらひら雪がロンのからだにかかります。くろいはなのさきにもやってきました。えいとロンはとびあがって雪をたべてしまいまし
た。おやふしき、いつもなら口のなかですぐシーンととけてしまうの
に、きょうの雪はとけません。とけないどころかあまーいので
す。ロンはみじかい首をまげて考えました。

ロンはつもった花びらにはなを押しつけて、ふんふんといいまし
た。ああいにおいです。ねむなくなるようないにおいです。

ロンはこどもたちにもういちど、花びらをかけてちょうどいとし
っぽをふりました。

こどもたちにはロンのおもつてていることがすぐわかりました。

こどもたちはまた両手にいっぱい花びらをすくいあげると、ぱつ
とかけてくれました。

子どもたちはまた両手にいっぱい花びらをすくいあげると、ぱつ
とあびたり、まことにごちそうにしたりしてあそびます。

そんな幼児たちの生活からヒントを得てつくったお話をです。

みんなたべちゃう

四才児向

どうどう給食の時間がやつてきました。

朝起きた時からまつていた給食です。きょうはオムレツとジャムバ
ンの日です。

「いただきまあす」みきちゃんは「あいさつをするとき一番さきに
オムレツをいただくことにしました。

お月さまを半分にしたような、すてきなオムレツ、給食のおばさ

んがひとつひとつこわきないように、ていねいにつくつてください
たオムレツです。

「ありがとうおばちゃん」

お箸でそーっとはさむと、黄色いたまごのあいだから肉や野菜が
こぼれます。

みきちゃんはあわてて口に入れました。

ああ、おいしい。

さてと、こんどはパンをいただくばんです。前にいるけんちゃん
が、パンのかどをちぎって「自動車のパンになっちゃった」といっ
ています。みきちゃんもパンをちぎってみました。

「あれ、ぼくのは、ながぐつだ」みきちゃんのパンは長靴になりました。

いつかサンタクロースがくれた赤い長靴にていました。すると
みんながまねをはじめました。

りつ子ちゃんのは三角山になりました。まあちゃんのはくまさん
の顔になりました。ひろこちゃんのは旗になりました。みんなはい
るいろな形をつくりながら、せつせ、せつせといただきました。

黄色いオムレツもお馬になつたり、うちになつたりしてみんなの
口にせつせ、せつせ、せつせとはこぼれました。

みんながいっしょうけんめいにいただいたので、お盆の上のお皿

がからっぽになってしましました。

「まあのこさないで、えらいこと」と先生がおっしゃいました。

「ああおいしかった、『じわそうさま』みきちゃんたちはにこにこしながらごあいさつをしました。

入園したての幼児にとって給食は重大関心事のひとつです。

ある幼児にとってはこの上もないよろこびですが、すききらいの多い幼児にとってはこのうえもなく苦痛な存在でもあるわけです。

私はむしろ給食をこのまない子どもたちのためにこんなお話を与えてみました。

かくれんぼ

四才児向

とてもよいお天気なので、みんなでそとにててかくれんぼをしました。いろいろうちゃんは黄金樹の木の下で目をぎゅっとつむりました。

それなのにじろうちゃんが「みえる、みえる」といいました。

「それならこうしよう」といろいろうちゃんは両方の手で眼をおきました。

じろうちゃんはいそいでかけながらどこにかくれようかと考えま

した。

「あ、そうだ、にわとりさんのうちのかげがいいや」

じろうちゃんはとり小屋のそばに行つて、

「にわとりさん、ちょっとかくしてね」といいました。

「コッコッコ」とにわとりさんが返事をしました。

じろうちゃんは、

「おにがきたらないといつてこやのかげにしゃがみました。

みち子ちゃんはかけながらどこにかくれようかと考えました。

「そうちだ菊の花のかげがいい」

みち子ちゃんは花ばたけにしゃがんで

「お花さん、かくしてね」といいました。

「ブーンブーン」とみつばちが花のかわりに返事をしました。

よし子ちゃんはどうしようかと考えて幼稚園のうらにまわりました。

さぶろう君もついてきました。そこではおじさんが、もちの木の垣根をかっていました。

「おじさん、いないといってね」とさぶろうちゃんがいいますと、はさみが「チョッキン、チョッキン」と返事をしました。

だまって、だまってかくれていると、みんな一人ぼっちになつてしまつたような気がしてきました。

いちろうちゃんは、まわりが静かになつたのでキヨロキヨロみつけにできました。

その時、にわとりがコケコッコウとなきました。そうしたらじろ

うちやんが、「いやーん」といつてとびだしました。

じろうちやんはすぐみつかつてしましました。

花ばたけではみつばちがぶーんととびだしました。「あっ」といつてみち子ちゃんもできました。

そうしてとうとうみつかつてしましました。

「ああ、おかしい」三人が笑っているとまちきれないで、よし子

ちゃんときぶろうちやんがのここでてきてみんなみつかつてしましました。

その時、先生が「いれてね」といらしゃいました。

先生はみんなをみて、

「いいところにかくれましたね」といました。

「いちろうちゃんはとりごやのそばね。それから、よし子ちゃん

は裏の方じゃないかな」とあてました。

「どうしてわかるの」と聞くと、

「ほら」といて、いちろうちゃんのせなかとよし子ちゃんの足

をさしました。

せなかには白いとりの羽、足には、さわるととびつく“いのこづ

ち”的実がくつっていました。

みんなは「先生って、なんでもわかっちゃうんだな」って感心していました。

それからみんなはもつともつと良いところをさがして、かくれることにしました。

かくれんばはほんとうにおもしろいですね。

秋晴れの空のしたで戸外でのあそびをたのしむ頃になると四

才児のグループをつくってあそぶ姿がめだってきます。

友だちとあそぶよろこびをほんとうに知りはじめた彼らのあそびはあくことをしりません。かくれんばもそのひとつです。

この話はみんなであそんだ翌日にしたのですが、あまり現実に則しすぎてどうかとおもった懸念をよそに、案外好評でした。

幼児たちはお話のなかに自分をみいだして結構たのしんでおりました。

幼児たちは小さければ小さいほど、実際に自分たちが経験したことくり返したおはなしをこのむようです。

また、これが次のかくれんばあそびへのきっかけとなり多勢であそびをたのしむことができました。